



藤谷 謹至 議員
(拓政会)

問

大津市内の交差点で車が衝突し信号待ちをしていた保育園児の列に車1台が突っ込み、2歳の園児が死亡するという悲惨な事故が発生した。幼い子供たちが亡くなる事件・事故、偶然・突発的とはいえ起こってはならない。

幕別町において、子供たちの交通安全・防犯対策について再確認が必要と考え、以下の点を伺う。

(1) 保育所の散歩における危機管理の状況とコース危険箇所の確認および安全対策は。

(2) 幕別町通学路交通安全プログラムの検証と合同点検で明らかになった危険箇所等の改善進捗状況は。

(3) 交通安全指導員の現状および配置箇所の通行児童・生徒数の状況と分析、今後の考えは。

(4) 「子ども110番の家」協力者の状況と対応マニュアル・フローチャート周知の現状は。

町長 (1) 常設保育所では、平成23年12月、「幕別町立認可保育所危機管理マニュアル」を策定し、

問 保育所の散歩における危機管理と危険箇所の確認、安全対策は

答 「保育所危機管理マニュアル」に基づき、園児の安全を最大限に優先している

火災、災害、事故、事件等のあらゆる危機に対し、その事象に応じた対応や予防対策を講ずることとし、散歩においても当該マニュアルに基づいた予防対策や事故防止に努めている。具体的な安全対策では、極力、交通量の少ない道路や歩道がある道路を選定し、日頃から保育士が歩道の状況や交通量、交差点での見通しなど安全確認を行っており、散歩では必ず保育士が道路側を歩行し、危険を予見した場合にはコースを変更・中止するなど、園児の安全を最大限に優先している。町内5か所のへき地保育所も当該マニュアルに準じて安全対策を実施しており、町内2か所の民間保育所でも、当該マニュアルを参考にそれぞれマニュアルを策定し、安全管理に万全を期している。

(3) 交通安全指導員は、幕別市街地6人、札内市街地19人、糠内地域1人、忠類地域7人の計33人を配置している。指導員の配置箇所が学校に近づくほど児童生徒が集約

され、学校間近の箇所では、ほぼ当該学校の児童数と同数、少ない箇所では1人程度の通行児童生徒数である。今後も通過車両の状況や道路形状など危険度の実態に応じて適正な配置に努めたい。

(4) 「子ども110番の家」の協力者の状況は左下の表のとおり。子供たちが駆け込んだ場合の対処方法を記載した対応マニュアル、フローチャートは、昨年2月に一部更新し、協力者や警察、学校に再周知を行い連携を図っている。本年9月を目途に対応マニュアルをイラスト入りに更新し、町内全世帯への配布や、各学園のコミュニティ・スクールと連携し、地域ぐるみで子供たちの安心・安全に暮らせる環境整備に努めたい。

「子ども110番の家」協力者の状況 (5月末現在)

	一般住宅	事業所	合計 (箇所)
幕別市街地	9	24	33
札内市街地	36	34	70
郊外農村地域	83	6	89
忠類地域	12	17	29
合計 (箇所)	140	81	221

教育長 (2) 交通安全プログラムの検証と危険箇所等の改善進捗状況では、昨年10月に学校、警察、道路管理者等が連携して行う通学路危険箇所合同点検を実施し、対策が必要とされる18か所のうち、区画線の設置や警戒標識・歩道の新設などにより、6か所が対策済みであることを確認し、新たに交通量が多く注意喚起などが必要な7か所を対策箇所として加え、19か所を要対策箇所と位置付けた。要対策箇所には道路整備や横断歩道・信号機の設置なども含まれており、引き続き道路管理者や関係機関と連携しながら改善に向け取り組むたい。

再質問 今回の保育園児を巻き込んだ事故を受け、散歩コースの点検、安全対策は適切に行われたか。園外保育のマニュアルの必要性についての考えは。

答 事故を受けて、散歩ルートの再点検の指示をした。特段危険な箇所はなかったが、引き続き日々の点検を指示している。また、当該マニュアルは、園内のみならず園外、散歩も含めて全ての事象に対して、その危機対応を記載したマニュアルとなっている。